



東洋文庫  
24

平凡社

# 中国笑話選

江戸小咄との交わり

松枝茂夫  
武藤禎夫 訳

<sup>つえだしげ 夫</sup>  
松枝茂夫 明治38年佐賀市生，東京大学文学  
卒，東京都立大学教授，専攻 中国文学，主要  
訳書『周作人随筆集』（改造社）『紅樓夢』（岩  
波書店）曹禺『日の出』（中国現代文学選集・平凡  
社），現住所 東京都杉並区天沼3-660

<sup>むとうさだ 夫</sup>  
武藤禎夫 大正15年東京生，東京大学国史学  
科（昭和27年）卒，朝日新聞東京本社出版校閲部員，  
専攻 江戸文学，主要著書『断本について』『笑  
府研究』，現住所 千葉県東葛飾郡流山町松ヶ丘  
5-759-64

中国笑話選

東洋文庫 24

昭和39年8月10日 初版発行 ©

定価 450 円

編訳者 松 枝 茂 夫  
武 藤 禎 夫

東京都千代田区四番町4番地  
発行者 下 中 邦 彦

発行所 東京都千代田区  
四番町4番地  
東京29639 株式会社 平凡社

落丁、苦  
取 払い

印刷 東洋印刷株式会社  
製本 石津製本所

目次

笑府

卷一 古艶部

あきめくら

江川の賦

清福

息子に字を教える

薑の字

簞制生

牛の年

天氣が正しくよい

紅ろうそく

弓のまと

三

卷二 腐流部

夜廻り  
宦官

糧を求める

貧乏書生

屁を頌える

勉強家

夢に周公をみる

昼寝

昼寝

読みちがえる

読みちがえる

句読をあやまる

句読をあやまる

まちがって死ぬ

屎の字

川の字

二〇

三

三

三

三

四

四

五

六

七

七

八

九

九

二〇

大学の道

教え方

長つづきしない

育ちやすい

余姚よあやの先生

余姚の先生

道学者の喧嘩

孔子様のさばき

馬を問い給わず

房事

女道学者

卷三 世諱部

どろぼう

どろぼう

どろぼう

どろぼう

ふとん

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

借金

ザルをかぶる

借金を返した夢

保証人

かつぐ

居留守

婚約

こじき

こじき

痛い

夫の夫

若衆の結婚

若衆の結婚

若衆の結婚

紬の服

夢

虱を咬む

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

|                            |   |                        |   |
|----------------------------|---|------------------------|---|
| たいこもち                      | 四 | しらみ取りの薬                | 五 |
| 耳をかむ                       | 四 | ひぜん <small>の</small> 薬 | 五 |
| 書記の作った詩                    | 四 | 僧の脈を診る                 | 五 |
| 使丁 <small>しちやう</small> の新婚 | 三 | 息子が状元になる               | 五 |
| 身 内                        | 三 | 乳                      | 五 |
| 卷四 方術部                     |   | 矢                      | 五 |
| 夜 泣き                       | 四 | 経 験 方                  | 五 |
| 身 熱                        | 四 | 薬代の相談                  | 五 |
| 葬式を請合う                     | 三 | 予 知                    | 五 |
| 葬式を請合う                     | 三 | 卷五 広萃部                 |   |
| 泳ぎの稽古                      | 三 | 和尚の女郎買い                | 七 |
| 名医を求めらる                    | 三 | 和尚の女郎買い                | 七 |
| お前に惚れた                     | 三 | 一と月に三度                 | 六 |
| 干した虫                       | 三 | 香 袋                    | 六 |
| 薬を送る                       | 三 | 糞を突く                   | 六 |
| どなりこむ                      | 三 | お なら                   | 六 |
| 足で蹴ってください                  | 三 | つきぬける                  | 六 |

天のむくい  
 精進あけ  
 僧と雀  
 えび  
 度牒を取りあげる  
 坐禅  
 行脚の僧  
 尼庵  
 斎の字  
 魔よけ札  
 料理人  
 料理人  
 床屋  
 靴直し  
 古長靴の修理  
 大工  
 酒店

厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶

仲人口  
 周旋屋  
 背中をかく  
 卷六 殊禀部  
 負けずぎらい  
 怒りっぽい男  
 気の長い男  
 水をこわがる男  
 閑静を好む  
 忘れっぽい男  
 忘れっぽい男  
 飲めぬ性  
 酒好き  
 阿呆の店番  
 馬鹿息子の留守番  
 大きな一の字  
 文王のことが心配

厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶 厶

|  |   |   |
|--|---|---|
| 李 <small>り</small> 三 <small>さん</small> 老 <small>ろう</small> | 代りに打たれる                                     | 三 |
| 長靴 <small>ながぐつ</small> を買う                                 | 乗馬  | 三 |
| 冬帽   | 骨董 <small>ぼんとう</small> ずき                   | 三 |
| 飛脚   | 好色  | 三 |
| 酒のかす   | 酔 <small>よ</small> ってから                     | 三 |
| 靴  | 卷七 細娛部                                      | 三 |
| 坊主   | 一人でない                                       | 三 |
| 薬 <small>くすり</small> をぬる                                   | 朝 <small>あさ</small> がえり                     | 三 |
| ばかむこ   | 頭 <small>かしら</small> を捕 <small>と</small> える | 三 |
| 氷  | 犬の肉   | 三 |
| 腹 <small>はら</small> の皮 <small>かわ</small> をつきやぶる            | 卷八 刺俗部                                      | 三 |
| 柳 <small>やなぎ</small> の苗 <small>こぼれ</small> の番              | 虎 <small>とら</small> を射 <small>や</small> る   | 三 |
| 腰掛 <small>こしかけ</small> の足                                  | 水 <small>みづ</small> に溺 <small>な</small> れる  | 三 |
| 米 <small>こめ</small> 買 <small>か</small> いに行く                | 日 <small>ひ</small> 取 <small>と</small> りをきめる | 三 |
| 鍬 <small>くわ</small> をかくす                                   | 遠 <small>とほ</small> くから呼 <small>よ</small> ぶ | 三 |
| 卵 <small>たまご</small> の塩漬                                   | 客 <small>きやく</small> にふるまわぬ                 | 三 |
| 釣鐘 <small>つりかね</small> の肉                                  | 客 <small>きやく</small> を好 <small>この</small> む | 三 |



|                             |     |                            |     |
|-----------------------------|-----|----------------------------|-----|
| むちや飲み                       | 一〇三 | 妻の肖像                       | 一三三 |
| ズボン                         | 一〇三 | 竈は別                        | 一三三 |
| 塩豆                          | 一〇三 | ほら                         | 一三三 |
| 錫のおまる                       | 一〇四 | うそくらべ                      | 一三三 |
| 仙人の指                        | 一〇四 | 人まね                        | 一四四 |
| 金の羅漢                        | 一〇五 | 卷九 閨風部                     |     |
| 小のために大を失う                   | 一〇五 | 周公にお礼をする                   | 一四六 |
| 共同で酒を作る                     | 一〇六 | はらわた                       | 一四七 |
| 共同で畑を作る                     | 一〇七 | へのご論                       | 一四七 |
| 欲得 <small>ぞく</small> ずく     | 一〇七 | 轎 <small>こし</small> の棒をさがす | 一四七 |
| 新しい絹 <small>スカーツ</small> の裾 | 一〇八 | もう泣かぬ                      | 一四八 |
| ほら                          | 一〇八 | 轎の底がぬける                    | 一四九 |
| ほら                          | 一〇九 | 嫁ぬすみ                       | 一四九 |
| ほら                          | 一一〇 | 花嫁のおなら                     | 一五〇 |
| 尿瓶 <small>しびん</small> を片づける | 一一〇 | 婿の泣き声                      | 一五〇 |
| 出てこない                       | 一一一 | よくない                       | 一五三 |
| 夫の権威                        | 一一一 | 着物をぬぐ                      | 一五三 |

|   |    |           |    |
|---|----|-----------|----|
| 枕の使い方                                   | 一三 | 死体を扇ぐ     | 一三 |
| へちま                                     | 一三 | 歯をくいしばる   | 一三 |
| 子を叱る                                    | 一三 | 再 婚       | 一三 |
| 子を叱る                                    | 一三 | へりくつ      | 一三 |
| 子を叱る                                    | 一三 | あ ざ       | 一三 |
| 根元半分                                    | 一四 | かみなりに打たれる | 一四 |
| 腎 <small>じん</small> 虚 <small>きょ</small> | 一五 | 義妹をぬすむ    | 一五 |
| 人の気も知らずに                                | 一五 | 卷十 形体部    |    |
| 宮まいり                                    | 一六 | 長 い 顔     | 一六 |
| へのこを質に入れる                               | 一六 | 鉄 面 皮     | 一六 |
| 神に祈る                                    | 一七 | まじない      | 一七 |
| 確実に男児を生む法                               | 一六 | 近 視       | 一七 |
| 薬 の 名                                   | 一六 | 近 視       | 一六 |
| 糸つむぎ                                    | 一六 | 近 視       | 一六 |
| 強姦の訴え                                   | 一五 | めくらの笑い    | 一六 |
| 初婚の妾                                    | 一五 | つ ン ぼ     | 一六 |
| 下女のおなら                                  | 一三 | つんぼ医者     | 一六 |

おしとつんぼ  
赤 鼻  
鼻つんぼ  
ヒゲ男  
春 画  
同じヒゲ  
ヒゲ男  
こ ぶ  
大へのこ  
一番ほしいもの  
物の大小  
貴 相  
おならの名人  
椅子の音  
物言わぬ

卷十一 謬誤部

行 令

一四〇 行 令  
一四〇 年をくらべる  
一四一 鏡を見る  
一四二 乗合船  
一四三 才 人  
一四四 頭 巾  
一四五 こ も  
一四六 ほら貝  
一四七 薪を割る  
一四八 米  
一四九 半分に値切る  
一五〇 髪 毛  
一五一 穿 山 甲  
一五二 卷十二 日用部  
一五三 靴と靴下の訴訟  
一五四 犬の年  
一五五 豆 腐

一五〇 一五〇 一五〇 一五一 一五二 一五三 一五四 一五五 一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇

ワンタン

一三

魔王の反乱

一七

鰻 頭

一三

からだと心

一七

だんご

一三

馬の表徳

一七

精進を守る

一四

負けずぎらい

一七

精進を守る

一四

ころぶ

一七

煮 豆

一四

鍋を売る

一七

生 酔

一四

馬を換える

一七

すっぱい

一四

貧乏な家庭教師

一七

茶の葉を借りる

一六

せむしを治す

一七

河 豚

一七

太 鼓

一七

卷十三 閩語部

人をこさえる

一六

仙 女

一六

笑府以前

千里の馬

一六

笑 林

一八

蛙 帽

一七

及第者

一七

長い竿

一八

口と足のけんか

一七

鳳 凰

一八

木の葉隠れの術

一八三

孟鼎尉、妻に答える詩

一九一

火打石

一八三

王氏、盧鼎丞に答うるの詩

一九二

しまり屋

一八四

お化けの寄りあい

一九三

しまり屋

一八四

犬のふぐり

一九四

母に似る

一八五

あげ焼餅

一九五

たけのこ

一八五

女房もちの道士

一九六

火のし

一八六

赤ん坊の泣き声

一九七

肉をくわえる

一八六

釘か蜂か

一九八

鼻を噛みおとす

一八七

石地藏に路をきく

一九九

人まね

一八八

裸で火を吹く

二〇〇

山鳩

一八九

毛はえ菜

二〇〇

野菜

一八九

詩謎

二〇一

## 諧噓録

一九〇

水難

二〇二

犬の首輪とふんどし

一九〇

魚の飼いかた

二〇三

## 笑海叢珠

一九一

齋をだまし食う

二〇三

木をきって鳥をつかまえる

二〇四

驟馬に突かれる

二〇五

|              |     |           |     |
|--------------|-----|-----------|-----|
| 笑苑千金         | 二〇六 | 迂叟と滑叟     | 二二七 |
| 可の字のかたち      | 二〇六 | 応 諧 録     | 二二八 |
| 井に人あり        | 二〇七 | めくらのなげき   | 二二八 |
| 貧 乏 神        | 二〇八 | 猫の名前      | 二二九 |
| 頭道具を分ける      | 二一〇 | めくら同士     | 二三〇 |
| 物わかりのよい神様    | 二一一 | 笑 贊       | 二三一 |
| 父 の 顔        | 二三二 | 打つのは打たぬこと | 二三二 |
| 裙子の下         | 二三三 | しもべ城内へゆく  | 二三三 |
| 自分のことを詩によみこむ | 二三三 | 結構な姓      | 二三三 |
| 二本足の猫        | 二三四 | 端 公       | 二三三 |
| 艾子雑説         | 二二六 | 三 教       | 二三四 |
| 艾子後語         | 二二六 | 豈有此理      | 二三四 |
| 艾子外語         | 二二六 | 酒 ず き     | 二三四 |
| 歳をくらべる       | 二二六 | 儒 士       | 二三五 |
| まえもって泣く      | 二二六 | ヒゲの李      | 二三五 |

砂糖きびのかす

三三

富を自慢する

三三

神像

三六

せっかち

三三

貧乏書生

三六

老先生

三三

孝行

三六

笑倒

三三

恐妻家

三六

吉運

三三

盲人

三六

封君

三三

## 笑禪録

三九

馬鹿な下僕

三四

灯明かきたて棒

三九

四等の親戚

三四

金欠病

三〇

地相

三五

せっかち

三五

## 笑府以後

## 精選雅笑

三三

うすい酒

三六

蚊のお符た

三三

たいこもち

三六

義民官

三三

ふるまい

三九

|                             |     |                           |     |
|-----------------------------|-----|---------------------------|-----|
| 糞を売る                        | 二二九 | 秦代の人                      | 二四六 |
| 葉しべを挿す                      | 二二九 | ヒゲを抜く                     | 二四六 |
| 運がわるい                       | 二四〇 | 笑 得 好                     | 二四七 |
| 二 夫                         | 二四〇 | 二百歳のときの心配                 | 二四七 |
| 難 經                         | 二四一 | 黒い歯・白い歯                   | 二四七 |
| 提 灯                         | 二四一 | 股の肉をきる                    | 二四八 |
| わたしを思っていた                   | 二四二 | 柩 <small>ひつぎ</small> に題する | 二四九 |
| 足が観音様に似ている                  | 二四三 | 顔だちがそっくり                  | 二四九 |
| 一段ずつあぶる                     | 二四三 | 精進料理はいたただかぬ               | 二五〇 |
| 足を焼く                        | 二四三 | すこし上の方を殺して                | 二五〇 |
| 子ができぬ                       | 二四三 | 虎 の 詩                     | 二五一 |
| 母親 似                        | 二四三 | 人 参 湯                     | 二五一 |
| 手 氏                         | 二四三 | 皇帝の着物                     | 二五二 |
| 梅 の 画                       | 二四四 | 干柿を食う                     | 二五二 |
| 曆 <small>こよみ</small> の本を与える | 二四六 | 羊を盗む                      | 二五三 |
| よくぞ打った                      | 二四六 | 宿をかる                      | 二五四 |
| 靴 下                         | 二四七 |                           |     |



毛をぬく  
 寝せつける法  
 けっこうな拳骨  
 粗末な月  
 虎にのる  
 市中で琴を弾く  
 おなら  
 天窓をあける  
 馬で財産をつぶす

笑林広記

金 次 第  
 金を取る  
 書物が低い  
 学校の門  
 お産にたとえる  
 四書の講義

二五四  
 二五五  
 二五五  
 二五五  
 二五六  
 二五六  
 二五七  
 二五八  
 二五九  
 二五九  
 二六〇  
 二六〇  
 二六一  
 二六一  
 二六二  
 二六二  
 二六三  
 二六三  
 二六四

赤壁の賦  
 猫と鼠  
 棺桶をかつぐ  
 名 医  
 女を迷わす薬  
 おなら  
 女陰の雛型  
 ふたなり  
 すっぱい酒  
 黄ひげ  
 田にし  
 眼のないもの  
 うるしの手箱  
 あくび  
 口 臭  
 婿の病氣  
 くしゃみ

二六四  
 二六五  
 二六五  
 二六六  
 二六六  
 二六七  
 二六七  
 二六八  
 二六八  
 二六九  
 二七〇  
 二七〇  
 二七〇  
 二七一  
 二七一  
 二七二  
 二七二  
 二七三  
 二七三